

道しるべ 硬い信頼

繁華街での「路上禁煙」
や自転車の「駐輪禁止」な
ど、路面に埋め込む表示タ

イルの製造を手掛けるニッ
トー（岐阜県土岐市）が順
調に納入先の自治体を増や

している。東京都の三区
(千代田、新宿、台東)の

ほか、大阪市や京都市、岐
阜県高山市など十九市一町

が二ットー製を採用し、三
年前に比べて倍増した。從
来の貼付式よりも高い耐久
性が評価されている。

(坂田泰央)

土岐の路面表示タイル製造「ニットー」



◎自治体向けの路面表示タイルを紹介するニットーの日東英成社長=岐阜県土岐市で
◎宮城県南三陸町に納めた津波避難経路の表示タイル=ニットー提供



していったが、町内二十カ所に埋めた「津波避難経路」の表示タイルはそのまま道に残っていた。南三陸町は二〇〇五年に津波避難の指針をまとめた。「今後、沿岸部の自治体などに津波避難経路の表

示タイルを提案してきました」と日東社長は話す。ニットーは一九六四年、日東社長の父・重信氏が陶器について研究を始め磁器メーカーとして当導入した貼付式は摩耗して表示が見えにくくなり、〇八年に切り替えたのがニットーのタイルだつた。

震災後、ニットーは識者や研究機関とともに、迅速に、〇五年、全国でいち早く路面上禁煙地区を指定した東京都千代田区に提案したのがニットーは一九六四年、きつかけだった。千代田区は、公共事業は縮小を続けており「民間向けの仕事を増やしていくことが今後課題」(日東社長)といふ。現在、官公庁向けと住宅など民間向けの販売比率は七対三。将来的には五対五にしようとして、路面表示タイルとは別に、住宅用タイルの商品開発にも力を入れる。

民間市場は大手の住宅総合設備メーカーが攻勢を強めており、「中小メーカー

が下請けに甘んじなければならぬ状況だが、これらは企画力で挑む」と日東社長。レンガや瓦を扱う素材メーカー十五社で連携し、デザイン性の高い庭や玄関回りの提案を開始。路面表示と住宅用の一本柱で、三年後に売上高を一・五億に増やすのが目標だ。

は路上に貼付した表示がはがれやすいことに頭を擱えていた。提案したのは番りににくい特殊加工を施し、強度を高めた二〇〇度の高温で焼いた磁器タイル。その耐久性の高さから、複数社に差をつけ、道路や教育施設向けなど官公署からの発注が相次いた。

磁器製 震災で耐久性証明

昨年九月、東日本大震災で大津波に襲われた宮城県南三陸町を訪れたニットーの日東英成社長(写真)。「当社の製品が役に立ったと祈りたい」。街の様子は一変